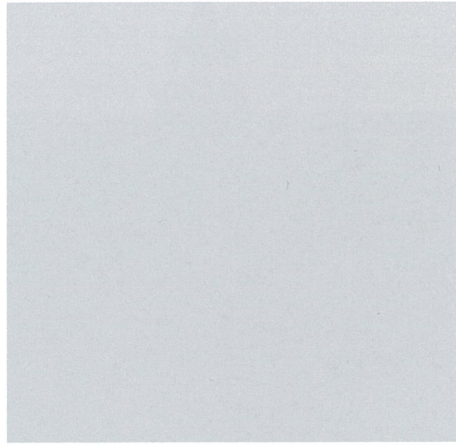


リビ裕子

Hiroko Ribi

絹の饗宴 ロングドレス



Profile

文化服装学院卒 TIS.ribi 主宰 日本洋装協会常務理事

母親が洋裁教師の影響で、幼少期の頃から好きなデザインの洋服を着ていた。卒業後、ロングドレスに興味を持ち、ドレス系の企業デザイナーを経て、クチュールデザイナーとして独立。2年間の渡英後にスイス人の夫と日本在住。その後、35年以上ファッションの専門学校にて、CAD・平面製図・立体裁断・縫製技術の常勤講師として教鞭を執ってきた。現在は非常勤講師として勤務する傍ら、恵比寿にあるスタジオで、ドレスの制作その他、プロから一般の方々に気軽な教室として幅広く教えている。

HP <http://www.tisribi.com>

掲載作品は 2016 年全日本洋装技能コンクール受賞作品。

和洋文化の融合が生み出した 装いの新境地

評論＝面谷哲郎

過日、東京の浅草で、着物姿の外国人観光客に幾人も出会い驚かされた。聞けば、着付けをする専門店があつて人気をよんでいるのだという。着物は日本の民族衣装だが、ことに女性の装いの魅力は広く諸外国にも知られる。が、着物の着付けは簡単ではない。その着付けの難しさを柔軟な発想で解消し、着物の魅力を味わわせるのがこの作品である。

滑らかな体の線を際立たせる装いは、まさに洋風のドレス。が、胸元を飾る垂領たりのりの襟、胴や背の帯を思わせる装飾、また腰元から足元へお引きずりの様に裾を返し引きずるデザインなど、いずれも着物の情趣が匂いたつ。素材の絹地のやわらかい艶やかな風合いが、やさしい着心地で肌にしっとりなじむと見える。赤、黒、金、銀の色の取り合わせも、豪奢ななかに落ち着いた上品さを含み、着物の魅力が横溢する。これが、着用しやすいワンピースドレスに仕立てられているのだ。和洋の特長を巧みに融合し、ファッションの新生面を拓いている。